

～テーマの選定理由～

- テーマ1「奥出雲らしい子育て」
人口流失や少子高齢化が進む中で、奥出雲の未来を担う子どもを育てるためには、愛郷心を育み、奥出雲らしい子育てをすることが重要です。奥出雲らしい子育てをするために何ができるか、話し合っていたきたいと考えテーマとしました。
- テーマ2「木次線のある暮らし」
木次線は利用者の減少やトロッコ列車の老朽化等の課題が出てきています。子どものころから利用してきた木次線のある暮らしを守るために何ができるか、話し合っていたきたいと考えテーマとしました。
- テーマ3「自宅で長く健康で住み続けること」
近年、健康や病気の予防に関する情報を取り上げるテレビ番組等が増えており、老若男女を問わず多くの方が関心を持っていると言えます。誰もが健康で長く活躍していただくために何ができるか、話し合っていたきたいと考えテーマとしました。



グループワークの様子



発表の様子

奥出雲町タウンミーティングを開催

11月18日、役場仁多庁舎において、奥出雲町タウンミーティングを開催しました。奥出雲町タウンミーティングは、町政座談会から趣向を変え、町民の皆さんにまちづくりについて考えてもらい、ご意見を伺う場として今年初めての開催となります。

当日は、町内9地区から各世代、各団体などを代表して約50人が集まり、事前に設定した町の課題となる3つのテーマについて、普段の生活の中で感じていること、課題に向けて個人ができることなど、意見交換を行いました。

各グループからテーマごとに「こうあってほしいという理想」「困っていること」「自分ができること」について、解決策やグループの考えを「施策の芽」と題して発表がありました。

今回のタウンミーティングで、提案のあった意見は、町政運営に役立てていくため、今後役場内での協議を経て、第3回自治会長会連合会、町広報等において報告させていただく予定です。

なお、これまで町政座談会において、各地区からいただいた個別の要望については、町行政に対する意見・要望（自治会要望）等を利用して引き続き回答させていただきます。

※タウンミーティングにおいていただいた意見の一部をご紹介します。

テーマ1「奥出雲らしい子育て」について

	こうあってほしいという理想	困っていること	自分ができること	施策の芽
1	大きくなって地域へ帰ってきてほしい	・子どもが少なくなり、コミュニケーション等が子ども達に影響があるのではないかと不安 ・遊び相手がなく、行くにしても送迎が必要	若い世代や子育て世代を集めることができる	地域のみんながつながる、地域のすばらしさを伝える子育て世代向けの活動（笹巻きづくり、餅つきetc）
2	ふれあいの場所	・遊ぶ場所が少ない ・町内の行事 ・活動にはお金が必要	ふせの風（ボランティアグループ）18才～60才まで活動しています	ひとりでは難しいのでグループ（ボランティア）で行動する
3	イベント、講演会に参加したい	・子どもを預ける人、場所がない ・時間が限られる	・その時間、子どものお世話をする ・見守り、遊ぶ場所がある	イベントなどの際、託児スペースを設ける

テーマ2「木次線のある暮らし」について

	こうあってほしいという理想	困っていること	自分ができること	施策の芽
1	・木次線を残したい ・奥出雲町の風景に木次線があってほしい	・利用者の減少 ・駅まで時間がかかる ・木次線は存続してほしい ・生活の利便性のため活用には無理がある ・観光を主にした施策 ・廃線の危機	・電車が好き ・イベント企画が好き	・鉄道好きの方向け 木次線撮影ツアー（撮影ポイントを住民から募集） ・小中学生対象 木次線に乗って松江or出雲or米子へ行くイベント 通勤通学時間帯の充実→町外から通う方を増やす
2	・木次線は存続してほしい ・生活の利便性のため活用には無理がある ・観光を主にした施策	写真マニア等が多くなり危険に感ずる事がある	・鉄道沿線の環境美化に協力したい	坂根のスイッチバックが下から見えるように沿線の木を伐採し、勇壮な姿を見せる 又、三井野から坂根までの旧道を遊歩道として改良して観光誘致、三井野高原の復活

テーマ3「自宅で長く健康で住み続けること」について

	こうあってほしいという理想	困っていること	自分ができること	施策の芽
1	心身ともに健康	交流の機会が少ない	交流の場	少人数で集まれる、ミニミニサロン
2	高齢になっても身体も心も元気な人でいたい	外出する機会が減った	・運転ができる ・地域行事に参加できる ・地域の人と面識をもつことができる	地域で年齢関係なく人と人をつなげ、外出を促しあえる人間関係作り、促せる人材育成作り
3	高齢になっても病気になっても気持ちは元気なでいたい	将来なるべく子どもたちに負担をかけたくない	・いろんな人との交流の場に出ること ・情報を得ること	車の運転が出来なくなっても買い物などネットでも出来るようにパソコン、スマホの使い方をマスターしておく

横田中学校1年生がきこり体験



▲ロープを使つての荷積み体験

奥出雲町深山のきこりプロジェクト実行委員会が、島根県の「みーもの森づくり事業」を活用し林業体験を通して山林整備の大切さを子どもたちに伝えようと、横田中学校1年生を対象に「子ども版きこりプロジェクト」を10月17日に実施しました。

生徒たちは山林整備の必要性について講義を受けたのち三成地内の山林に移動し、のこぎりを使った玉切りや軽架線を使った集材作業などを行いました。慣れない作業に悪戦苦闘しながらも真剣に取り組んでいました。

竹に関する研修会を開催



▲竹チップパーの使い方講習

繁茂する竹の駆除とその有効利用を図るため、竹に関する研修会を11月18日に開催しました。

中山間地域研究センターの大場寛文研究員から竹の基本的な性質や利活用の事例紹介について、環境保全型農業推進ネットワーク櫛田姫の安部備造会長からは竹チップ堆肥を活用した米作りについて講演いただきました。参加者は竹の利活用について熱心に耳を傾けていました。

また、町で整備した竹チップパーの利活用を図るため、仁多郡林業研究グループの皆さんによる竹チップパーの使い方講習会も行いました。この研修会を通して、放置竹木の解消が少しでも進むことを期待しています。

奥出雲町酪農組合60周年記念式典を開催



▲奥出雲町酪農組合関係者の皆様

11月21日、斐乃上荘で町酪農組合60周年記念式典が開催されました。

本町の酪農は、昭和32年に富山県から子牛を預託導入したことから始まり、昭和35年には、現在の酪農組合の前身となる「横田町酪農振興会」が設立されました。その後、乳量や乳質改善のため、北海道を中心に乳用牛の導入、改良を重ねてこられ、記念すべき60周年を迎えられました。

式典では、これからも地域をあげて酪農振興に取り組むことを確認しました。

ふるさと納税制度を活用したまちづくり！
新たな返礼品を開発



▲返礼品を発表した町内事業者の皆様

ふるさと納税により、これまでに全国から約6億円の寄附をいただき、町の施策に活用してきました。

今年度は町産品の認知度の向上、地域活性化につなげるため、6月から奥出雲PR会議を開催し、「みずからはじまる奥出雲」というテーマのもと、官民一体となってふるさと納税の新たな返礼品の開発に取り組みました。会議を重ね、町産品を組み合わせた返礼品5品を開発し、11月16日から、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」に掲載を始めています。

今後も事業者同士の連携による新たな商品開発を奨励し、町産品を通じた町の魅力発信に努めます。